



東京大学高齡社会総合研究国際卓越大学院

WINGS-GLAFS

World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology
:Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society

2022年度プログラム履修生募集 募集期間は8月～10月

【プログラムについて】

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齡社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齡社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齡者を研究対象とする方に限らず、高齡社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、幅広く募集します。

【募集の対象】（募集人数10名）

- ・修士1年：2022年4月入学者、2022年10月入学者
- ・（4年制・3年制博士課程の場合※）博士1年：2022年4月入学者、2022年10月入学者
- ・ただし、下記に示すプログラム参画専攻に在学し、かつ博士課程進学を決意している方

【工学系研究科】全専攻

【人文社会系研究科】社会文化研究専攻

【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻

【法学政治学研究科】総合法政専攻

【総合文化研究科】広域科学専攻

【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻

【医学系研究科】国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻

【新領域創成科学研究科】人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、国際協力学専攻

【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻

【学際情報学府】学際情報学専攻

※先端学際工学専攻、獣医学専攻、社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻は博士課程のみ。

【プログラム内容】

(修了単位) 必修科目3単位 (通論2単位、演習1単位)、選択必修科目4単位 (各専攻から提供される高齢社会横断科目群より選択) の合計7単位

(経済的支援) 卓越RA: (修士1年度末のQEを経て) 修士2年次より博士課程まで月額18万円支給

【募集スケジュール】

8月3日(水)16:00-17:00
に掲載予定)

募集説明会 (@Zoom 録画を下記HP

9月12日(月)~9月26日(月)17:00 申請書類受付期間

9月28日(水),29日(木),30日(金)am 面接
10月1日(土)11:00 合格発表

※募集説明会のZoom参加者はその場で質疑に参加できます。なお、募集説明会のZoomの記録は、HPで随時見られるようにする予定です。

【募集要項・応募書類・問い合わせ先】

ホームページ→

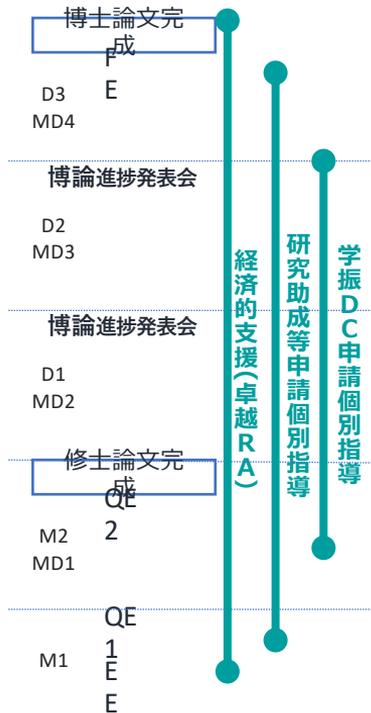
- 募集要項・応募書類は、GLAFSホームページ<http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>
- お問い合わせ: GLAFS事務局 info@glafs.u-tokyo.ac.jp



WINGS-GLAFS

高齢社会総合研究国際卓越大学院

日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」
における基盤的総合知の習得・最前線での体験を通し
て
自らの専門領域研究力の強化を図る



日本を皮切りに世界共通の社会課題となっている「高齢社会問題」は今や、全ての学問領域の共通の研究背景となっています。

多角的・総合的に行われている高齢社会問題をめぐる基盤的総合知を体系的・効率的に学ぶことを通して、

皆さんのそれぞれの専門領域の研究の幅を広げ、研究力の強化につなげます。

専門領域研究力の高度化

現場解決力

必修1単位 高齢社会演習
高齢社会総合研究の最前線における「現場解決力」の修得

俯瞰力

必修1単位 高齢社会通論1【心と体の健康】
必修1単位 高齢社会通論2【社会環境】
日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得
※2021年度中は「高齢社会総合研究概論」

領域連携力

選択必修4単位 高齢社会横断科目群
各専攻等の提供科目を通して、自らの専門領域あるいは他の領域を超高齢社会の視点で学び考える力の修得
※2022年度から開講

民間企業、研究機関、国内海外大学等

第一線で活躍する
修了生

高齢社会総合研究機構 (IOG)

産業界

企業・団体
官(行政)

国・都道府
県・市区町村

地域

住民・
NPO・町内
会自治会
国際

海外連携大
学

9研究科・1学府

(※ 本プログラムでは現在「参画専攻の拡大」を実施中のため、新たに参画専攻が上記に加えられることがありますので、最新情報はHPでご確認ください。)
工学系研究科11専攻・医学系研究科5専攻・人文社会系研究科1専攻・法学政治学研究科1専攻・農学生命科学研究科7専攻・教育学研究科2専攻・総合文化研究科1専攻・情報理工学系研究科1専攻・新領域創成科学研究科3専攻・学際情報学府1専攻

■WINGS-GLAFS生の標準的学事歴 (修士2年+博士3年の標準型)

●修士1年A学期 3月 全体発表会 (学修進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

- ・10月 履修ガイダンス
- ・ A1学期「高齢社会通論1 (必修1単位)」履修
- ・ 高齢社会横断科目群履修開始 (修士1年S学期に履修したのも算入可) (全4単位)
- ・ 高齢社会演習履修開始 (全2単位)

●修士2年S学期 7月 全体発表会 (学修進捗発表)

- ・4月 卓越RA (18万/月) 受給開始
- ・ S1学期「高齢社会通論2 (必修1単位)」履修
- ・4-5月 JSPS学振研究員応募【必須】 (申請書作成副指導) (卓越RA受給資格要件)

●修士2年A学期 3月 全体発表会 (学修進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

- ・この頃までには、標準的に、履修単位は取り終えているはず。(あとは、GLAFS・IOG提供プログラムに随時参加)

●博士1年S学期 7月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

- ・4-5月 JSPS学振研究員応募【必須】 (申請書作成副指導) (卓越RA受給資格要件)

●博士1年A学期 3月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

●博士2年S学期 7月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

- ・4-5月 JSPS学振研究員応募【必須】 (申請書作成副指導) (卓越RA受給資格要件)

●博士2年A学期 3月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

●博士3年S学期 7月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

●博士3年A学期

- ・3月ころ 最終博論進捗発表 (専攻内での審査終了後) (FE: サーティフィケート授与資格審査)
- ・3月下旬 学位授与式 (WINGSのサーティフィケート (学位記に付記) 授与)

A1ターム「高齢社会通論1」（健康とケア）（主担当：飯島）

- 第1回 ジェロントロジー総論：老いとつきあう (飯島勝矢 IOG・未来ビジョン研究センター)
- 第2回 SDGsと教育－生涯学習時代における「学び」のあり方－(北村友人 教育学研究科)
- 第3回 老化と生物学 疾病・障害とヘルスプロモーション(孫輔卿 IOG・未来ビジョン研究センター)
- 第4回 高齢期の社会関係とwell-being (菅原育子 西武文理大学)
- 第5回 転倒・リハビリテーションの支援 (田中敏明先生 IOG)
- 第6回 人間・生活支援とテクノロジー (二瓶美里 新領域創成科学研究科)
- 第7回 都市・農村の高齢者と農業のリアリティ (八木洋憲 農学生命科学研究科)
- 11/30 第8回 人生の最終段階のケア (山本則子 医学系研究科)

S1ターム「高齢社会通論2（社会と地域）」（主担当：大月）

- 第1回 超高齢社会における住まいと地域／大月敏雄（東京大学 工学系研究科）
- 第2回 超高齢社会を地域で支える-IOGモデルのまちづくりとは／辻哲夫（東京大学 IOG）
- 第3回 高齢社会のハウジング-社会学の観点から／祐成保志（東京大学 人文社会学研究科）
- 第4回 超高齢社会における地域への介入／李ヨンゴン（東京大学 工学系研究科）
- 第5回 高齢社会のアクションリサーチを考える／高瀬麻衣（東京大学 IOG）
- 第6回 Geronte-Informatics／檜山敦（東京大学 先端技術研究所）
- 第7回 超高齢社会における外出環境／松田雄二（東京大学 工学系研究科）

2022年度高齢社会横断科目群

例示：HP参照（なるべく「普通に取れる」科目を準備）

※当該年度での開講の有無は、各自UTASでご確認ください。

専攻名	科目番号	科目名	単位数	開講区分	主担当 教員名	備考
工／社会基盤学	3713-126	Urban Studies in the Post-Pandemic Era (ポストパンデミック時代の都市論E)	1			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通科目
工／社会基盤学	3713-140	復興デザイン学	2			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通科目
工／社会基盤学	3713-086	復興デザインスタジオ	4			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通科目
工／建築学	3714-017	建築計画学第2	2	A1	大月 敏雄	隔年開講(奇数年度)
工／建築学	3714-039	建築計画学第6	2	A1A2	横山 ゆりか	隔年開講(偶数年度)
工／建築学	3714-112	建築計画学第7	2	S1	松田 雄二	毎年開講
工／建築学	3714-129	復興建築計画論	2	A1	大月 敏雄	隔年開講(偶数年度)
工／建築学	3714-019	建築計画学第4	2	S1S2	本間 裕大	隔年開講(奇数年度)
工／建築学	3714-167	復興デザイン学	2	S1S2	大月 敏雄 他	毎年開講
工／建築学	3714-136	復興デザインスタジオ	4	S1S2	大月 敏雄	毎年開講
工／都市工学	3716-001	都市計画特論第1	2	S1S2	小泉 秀樹	
工／都市工学	3716-151	都市計画特論第3	2	S1S2	村山 顕人	
工／都市工学	3718-011	都市空間政策特論第3	1	S1S2	大月 敏雄	
工／都市工学	3718-013	都市空間政策特論第5	1	S1S2	小泉 秀樹	
工／都市工学	3716-125	復興デザイン学	2	S1S2	横張 真 他	毎年開講



高齢社会演習

2022年度 プログラムNo. 2201

「フレイル予防」



■**担当教員**：飯島勝矢（未来ビジョン研究センター・教授）、孫輔卿（未来ビジョン研究センター・特任講師）

■**概要**：

人生 100 歳時代を迎えて、高齢者が安心して住み慣れた地域で自分らしく生きるためには、「健康増進～フレイル（虚弱）予防」が重要であり、そのための地域での戦略的な展開が必要である。そのなか東大 IOG では地域住民主体のフレイルチェック活動を開発し、担い手であるフレイルサポーター（地域高齢者）を養成することで、参加高齢住民とともにフレイルの兆候に気づき、フレイル予防活動を持続的に進める地域プログラムを開発した。

2022 年度のフレイル予防の演習は現在、進めている科学技術振興機構（JST）・未来社会創造事業（研究課題名：新価値 'IKIGAI' 駆動による社会貢献活動の個人最適化）の一環として実施する。具体的には定例全体会に参加し、JST 研究の目的である地域貢献活動の担い手（例：フレイルサポーター）が活動を通じて感じる生きがいを新価値 IKIGAI の概念で再構築し、その人の行動情報から計測・定量化するプロセスを研究進捗報告で理解する。最終的には本研究の目標である地域活動を通じた生きがいの可視化、生きがい向上の介入策開発や新たな担い手の確保など超高齢社会の地域課題解決に挑戦する総合知（人文、情報理工、工学系、老年医学）の研究取組みに参加することで、自分の研究の考え方、分野横断連携の在り方を学ぶ。

■**日程**：

<以下は2022 年度 S セメスター入点分。>

4/6（水）12:30-15:00（2.5h）フレイル予防ガイダンス（0.5h）
+JST-MIRAI 全体会議

4/12（火）17:00-19:00（2h）JST-MIRAI 班会議/学生同士の意見交換会

5/17（火）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

5/25（水）14:00-17:00（3h）フレイルサポーターとの意見交換会

6/9（木）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

7/15（金）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

<以下は A セメスター入点分。>

9/13（火）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

10/14（金）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

11/17（木）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

12/7（水）14:00-16:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

1/12（木）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

2/14（火）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

3/14（火）15:00-17:00（2h）JST-MIRAI 全体会議

■**留意事項**：

- ・上記プログラム出席希望者は必ずフレイル予防ガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・状況によってフレイル予防活動のモデル自治体（都内および柏市など）へのフレイルチェック現場体験（日程未定）や文京区の通いの場体験（日程未定）も行う可能性がある。
- ・各全体会議への出席希望者は、（孫）son@iog.u-tokyo.ac.jp へ連絡すること。
- ・10 名程度を 1 回の履修限度とする。



高齢社会演習

2022年度 プログラムNo. 2202

「めじろ台」



■**担当教員**：大月敏雄（工学系建築学専攻・教授）、李ヨングン（工学系建築学専攻・助教）

■**概要**：

八王子市めじろ台地区は 1970 年代から戸建て住宅を中心として開発された住宅地であるが、急激な高齢化が進行している。ポスト超高齢社会を見据えた根本的なまちづくりの計画と実践を目指して、地元自治会をベースに 2019 年に設立された「まちづくり協議会」に外部支援者として参加し、住民と共にまちづくりを考え、実践する。

■**日程**：

<以下は2022年度Sセメスター入点分。>

4/15 金 1730-1830 (1h) めじろ台ガイダンス
4/24 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
5/29 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
6/26 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
7/24 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会

<以下はAセメスター入点分。>

8/28 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
9/25 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
10/22 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
11/27 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
12/25 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
※ (1月以降は決まり次第連絡)

■**留意事項**：

- ・上記プログラム出席希望者は必ずめじろ台ガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・各協議会への出席希望者は、（大月）bigmoon7505@gmail.com と（李）lee.yonggeun@gmail.comへ連絡すること。
- ・上記協議会の分科会等の形で実施される各種会合に参加した場合も、上記と同様にプログラムの対象とする場合があるが、その際は事前に大月に相談すること。
- ・Zoom か現地かのいずれかで実施予定。
- ・現地開催の場合、各自の交通費は、別途支給するので、この場合はすぐに大月に連絡すること。
- ・10名程度を1回の履修限度とする。



高齢社会演習

2022年度 プログラムNo. 2203

「G-tech」



■**担当教員**：二瓶美里、菅原育子、藤崎万裕、三浦貴大、藪謙一郎、吉田涼子、吉崎れいな、伊藤研一郎

■**概要**：

近年、高齢化社会に起因する社会的課題に対して、AI や IoT の利活用による課題解決に関心が向けられている。一方で、活力ある高齢者が増加するとともに高齢者の生活スタイルやニーズも多様化しているため、用途に特化したソリューションでは高齢者の生活を十分に支援できないことが明らかとなっている。そのため、高齢者が自立的に自身の課題解決に取り組める柔軟性を持った社会実装のあり方について検討する必要がある。本演習では、高齢者が直面する生活課題を解決するのに、高齢者が自立的な QoL 向上を目指すことが可能な生活支援 ICT システムの社会実装の検討を行う。具体的な活動としては、①高齢者の生活スタイルとニーズを理解するヒアリング調査などの活動と、②実証実験を通じた社会実装の検討の活動である。AI や IoT のみならず、VR やメタバースなどの最先端のテクノロジーを活用した座学やプロジェクトの聴講などを演習の対象とする。具体的にはジェロントロジー・アカデミーのいくつかの講義や研究プロジェクトへの参画や、共創センターや VR 教育研究センターの活動も一部含める。また、プログラムを主体として得られた調査結果は学生を主体として論文執筆・国際会議発表をサポートし、著者や発表者の活動もプログラムに含める。

■**日程**：

04/15 金 1400 – 1500 (1h) G-tech ガイダンス
04 月 日程別途調整 (1h) 調査活動計画・実証実験計画会議
05 月 日程別途調整 (3h) ヒアリング調査活動・予備実験
06 月 日程別途調整 (3h) 実証実験
07 月 日程別途調整 (3h) 調査・実験データ分析会議
08 月 日程別途調整 (3h) 春学期まとめ・秋学期計画の相談会議
日程別途連絡 (4h) ジェロントロジー・アカデミー『情報とシステム』
日程別途連絡 (4h) ジェロントロジー・アカデミー『ジェロンテクノロジー』

■**留意事項**：

- ・上記プログラム出席希望者は必ず G-tech ガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・調査活動や実証実験の計画・準備会議（ライブラリ/zoom 開催）などに参加すること
- ・日程が決まっていないところは、履修者と相談しながら決定予定
- ・交通費、研究活動経費は別途支給
- ・履修希望者は伊藤（k.kito@iog.u-tokyo.ac.jp）・吉崎（r.yoshizaki@mfg.t.u-tokyo.ac.jp）まで連絡



高齢社会演習

2022年度 プログラムNo. 2204

「豊四季台地域活動館」



■**担当教員**：高瀬麻以 (工学系研究科・特任研究員)・後藤純 (東海大学・特任准教授)・荻野亮吾 (佐賀大学・准教授)・似内亮一 (先端科学技術研究センター・助教)

■**概要**：

高度経済成長期に入居が進んだ団地では、高齢化が一挙に進み、医療・介護の充実や、移動支援や住環境の整備などの対応だけでなく、住み慣れた地域で、健康で楽しく暮らすための、コミュニティ活動の充実が求められている。本スタジオでは、コロナ禍における地域活動館を取り巻く高齢者の社会参加について調査・活動の実装をすることを目的とする。

■**日程**：

原則として、希望者と教員のスケジュールを随時調整しながらプログラムを進めます。MTGは隔週に一度程度のペースで行います。

現時点で確定している関連イベントは下記の通りです。

2022/4/8 4月情報交換会およびワークショップ (1300-1600)

2022/5/18 Dr. Chou 豊四季台訪問の折のご案内 (2-3hrを想定)

■**留意事項**：

- ・履修希望者は、6日(水)までに、高瀬(takase@iog.u-tokyo.ac.jp)までご連絡ください。
- ・交通費、研究活動経費は別途支給



高齢社会演習

2022年度 プログラムNo. 2205

「住民参加型のオープンイノベーション鎌倉リビングラボ活動の実習」



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

■**担当教員**：秋山弘子（高齢社会総合研究機構客員教授）、吉田涼子（高齢社会総合研究機構学術専門職員）

■**概要**：

リビングラボとは、生活の現場（住んでいる自宅、地域など）において、企画段階から住民を巻き込み、企業、自治体、大学、各種団体等が互いの強みを持ちよって暮らしを豊かにするモノやサービス、社会の仕組み等の新たな価値を共創する活動です。東京大学高齢社会総合研究機構は、鎌倉市、今泉台町内会、NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台、三井住友 FG 等と「鎌倉リビングラボ」を運営し、高齢社会の課題を解決するモノやサービスを創り出す活動を行ってきました。本実習では、リビングラボで行われるワークショップ、インタビュー等に参加することで、リビングラボとは何か、民産官学による協働やそこで生まれるアイデアがモノやサービスに結びつく過程を体験します。

加えて、大学・自治体・企業・組織等の約 400 団体 900 名が登録し、リビングラボに関する研究発表や意見交換、交流を行う「リビングラボ研究交流会」への参加機会を提供します。（開催は年に 3-4 回を予定、不定期）

■**日程**：

リビングラボの開催日時は未定。決まり次第、活動日の約 1 ヶ月前にメールにて募集。活動は COVID-19 の状況により、オンラインまたは現地（鎌倉市内）での参加。研究交流会は不定期開催。日時が決まり次第メールにて募集。実施は COVID-19 の状況により、オンラインまたは本郷キャンパス。

■**留意事項**：

- ・現地開催の場合、交通費は別途支給する。
- ・リビングラボは毎回若干名を homeroom@ を経由して募集する。受入人数の上限は内容によって変動する。
- ・リビングラボ研究交流会への参加は上限なし。



高齢社会演習 2022年度 プログラムNo. 2206 「ジェロントロジー・アカデミー共同研 究」



■**担当教員**：飯島勝矢（未来ビジョン研究センター・教授）、辻哲夫（高齢社会共創センター・共同研究員）、田中友規（工学系・特任助教）、田中康夫（工学系・学術支援専門職員）、神谷哲朗（工学系・学術支援専門職員）、高瀬麻以（工学系・特任研究員）

■**概要**：

IOG が推進する東京大学ジェロントロジー産学連携プロジェクトのプログラムである、ジェロントロジー・アカデミー ジェロアカが、企業人と研究者を繋ぎ、連携していくための双方向の連携の場として 2020 年度から設定された。本プログラムでは、ジェロアカへの参加を通して、ジェロントロジー研究が社会実装へ向けて応用されてゆくプロセスを体験的に理解する。

■**日程**：

別紙参照

■**留意事項**：

- ・各回の情報は homeroom@ で共有いたします
- ・参加が授業などの理由によって困難な学生に向けて、フォローアップ課題を配信します
- ・実習日誌は ICT LMS 上で集めます



■日程：

高齢社会演習 2022年度 プログラムNo. 2206 「ジェロントロジー・アカデミー共同研 究」



ジェロントロジー産学連携プロジェクト日程(案)

アカデミー・総括会は原則として3時間 サロンは2時間

	全体対象	共同研究会	アカデミー	サロン		全体対象	共同研究会	アカデミー	サロン
4月	19火14-17全体会			21木15-17飯島先生を囲む会	10月	事業地視察 13日木			
									25火15-17飯島先生を囲む会
5月			12木13:30~16:30第1回 31火13:30~16:30第2回		11月			11金13:30~16:30第9回 25金13:30~16:30第10回	
6月	事業地視察 8日水				12月				
			14火13:30~16:30第3回 16木15-17飯島先生を囲む会 28火13:30~16:30第4回					9金13:30~16:30第11回 23金13:30~16:30第12回	15木15-17飯島先生を囲む会
7月			12火13:30~16:30第5回 26火13:30~16:30第6回		1月			13金13:30~16:30第13回 24火13:30~16:30第14回	
8月			9火13:30~16:30第7回 18木15-17飯島先生を囲む会 23火13:30~16:30第8回		2月			10金13:30~16:30第15回 24金13:30~16:30第16回	17金15-17飯島先生を囲む会
9月	27火14~17前期総括	合宿7日水~8木			3月		10金14-17年度総括		
							24金14-17ジェロプロ活動総括		



高齢社会演習 プログラムNo. 2207



「工学系WINGSスペシャルレクチャー」

概要：

工学系研究科が中心部局となって運営している4つのWINGS（未来社会協創 WINGS-CFS、統合物質・情報 MERIT-WINGS、高齢社会総合研究 WINGS-GLAFS、量子科学技術 WINGS-QSTEP）を横断するプログラムとして、工学系WINGSスペシャルレクチャーを行います。企業のトップによる講演に加え、参加学生とのディスカッションの時間を設けますので奮ってご参加ください。

なお、各回の講演内容をもとに「演習レポート」を提出すると、各回につき3Pずつ演習ポイントが付与されます。

内容・開催日時：

第1回 岩崎 真人 様（武田薬品工業株式会社 代表取締役 日本管掌）
8月3日(水) 16:50-18:30 武田先端知ビル武田ホール

第2回 勝本 徹 様（ソニーグループ株式会社シニアアドバイザー ソニーユニバーシティ学長）
8月9日 (火) 13:00-14:40 工学部2号館213講義室

第3回 村岡隆史 様（株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO）
8月9日 (火) 15:00-16:40 工学部2号館213講義室

参加方法：

参加には事前登録が必要です。以下のフォームからお願いをいたします。

<https://forms.gle/jrg1aUGpNFV6bpHe9>

*添付のチラシも参照

*〆切は7/27日ですが、人数が定員に達した場合、事前に締め切ることもあります。

■その他、いくつかのアクティビティについて

●工学系WINGS 特別プログラム

WINGS-CFS

未来社会協創国際卓越大学院

MERIT-WINGS

統合物質・情報国際卓越大学院

WINGS-GLAFS

高齢社会総合研究国際卓越大学院

WINGS-QSTEP

量子科学技術国際卓越大学院

に、著名企業4社からの寄附金で運営。

○工学系WINGSスペシャルレクチャー

○IARU-Aging Longevity and Health Initiative Research Conference

世界に伍するトップリーダーの育成のため、IOG (GLAFS教育母体) が従来から参加しているIARU (国際研究型大学連合: International Alliance of Research Universities) のALH分科会 (Aging, Longevity and Health 飯島IOG機構長担当) で毎年行われる、世界の若手研究者が集うセミナー (一週間程度) に、WINGS学生を派遣するに当たり、参加企業にも選抜・報告に参加してもらい、実社会目線を十分に備えた、研究発表を実施する。

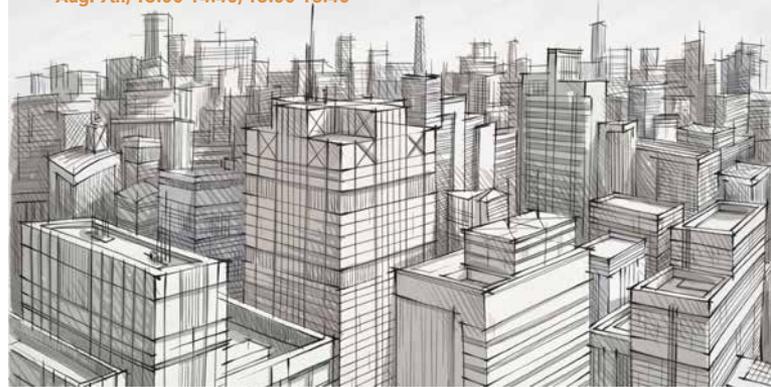
・必要予算: 2名の旅費・宿泊費支給 (今年度はコペンハーゲン大学)

工学系WINGSスペシャルレクチャー

Aug. 3rd, 16:50-18:30

Aug. 9th, 13:00-14:40, 15:00-16:40

special lectures for WINGS in school of engineering



工学系研究科が中心部局となって運営する4つの国際卓越大学院教育プログラム (WINGS) を横断するスペシャルレクチャーを行います。企業トップによる講演に加え、参加学生とのディスカッションの時間を設けますので奮ってご参加ください。

4つのWINGSコース生はもちろんのこと、これらのWINGSに今後参加する意欲のある工学部・工学系研究科の学生を歓迎します。

本レクチャーへの参加が、WINGSプログラムの修了要件に認められる場合があります。詳細は各WINGS事務局からの連絡をご確認ください。



第1回 岩崎 真人

真田薬品工業株式会社
代表取締役 日本管理



8月3日(水) 16:50-18:30
武田先端知ビル武田ホール

第2回 勝本 徹

ソニーグループ株式会社
シニアアドバイザー
ソニーコミュニケーション学長



8月9日(火) 13:00-14:40
工学部2号館213講義室

第3回 村岡 隆史

株式会社経営共創基盤
代表取締役CEO



8月9日(火) 15:00-16:40
工学部2号館213講義室

全ての回をオンラインにて実施することとなりました。
詳細は事前登録されたメールアドレスにご連絡いたします。



参加には事前登録が必要です。以下のフォームからお願いいたします。

<https://forms.gle/jrg1aUGpNFV6bpHe9>

締め切りを8月2日正午まで延期いたします。

Society for 2050: What Science and Technology
Can Do to Build a Dynamic Aged Society

November 3, 2016

1:00pm - Opening

1:30pm - Keynote Speech

Dr. Sarah Nelson (University of Oxford)

Dr. Makoto Niimi (The University of Tokyo)

1:45pm - Break

1:45pm - Panel Discussion

Professor Dr. Heide Madsen

The University of Tokyo

Dr. Lars and Morten (University of Copenhagen)

Dr. Shuang Chen (Tsinghua University)

Dr. David Byrne (The University of Sydney)



100 YEARS OF IARU



INTERNATIONAL ALLIANCE OF RESEARCH UNIVERSITIES

IARU ALH Conference @University of Copenhagen

19-21 October 2022 (on-site)

IARUとは

International Alliance of Research Universities

9か国の11大学が参加

Australian National University,
ETH Zurich,
National University of Singapore,
Peking University,
University of California, Berkeley,
University of Cambridge,
University of Cape Town,
University of Copenhagen,
University of Oxford,
University of Tokyo,
Yale University

理念

学生の国際的な視点を育むことを目指し、将来的なリーダーの育成を行う。特に分野横断型の連携と国際的なコラボレーションに重きを置く。

学生に多様な学習の機会を提供

提携大学が学習コース、インターンシッププログラム、Novo Nordisk International Talent Program、Graduate Student Conference等を企画

参考URL:

<https://www.iaruni.org/for-students>

基調講演



自分の研究の発表 (分野横断型)



東大2016年ホスト

グループディスカッション



発表と質疑応答



現在もメンバーと繋がっている

研究を行う際に、気軽にメッセージを送って連絡を取り合える仲間がいることは、財産である



Aging Longevity and Health Initiative Research Conference

6-8 October 2021に開催

Host: University of Cambridge (Zoom形式)



Conferenceの概要

Overarching goal of the conference

- ・ Research – Developing project ideas for funding applications and collaborations
- ・ Capacity Building – Developing a strategy to foster discussions and collaborations among/between early and mid-careers researchers across IARU members
 - ・ Impact – Planning to increase visibility and impact of ALH Initiative

ワークショップより挙げた、今後のコラボのテーマ

Healthy Aging Expert Survey

Loneliness

Integrated Care

Physical Activity

What have we learned from COVID?

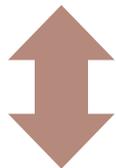
Comparative Studies

IARU参加が次へと繋がった例

University of Cambridgeからの博士後期課程の学生

・日本とイギリスの比較調査をしたく、日本でのネットワークの紹介を求めていた

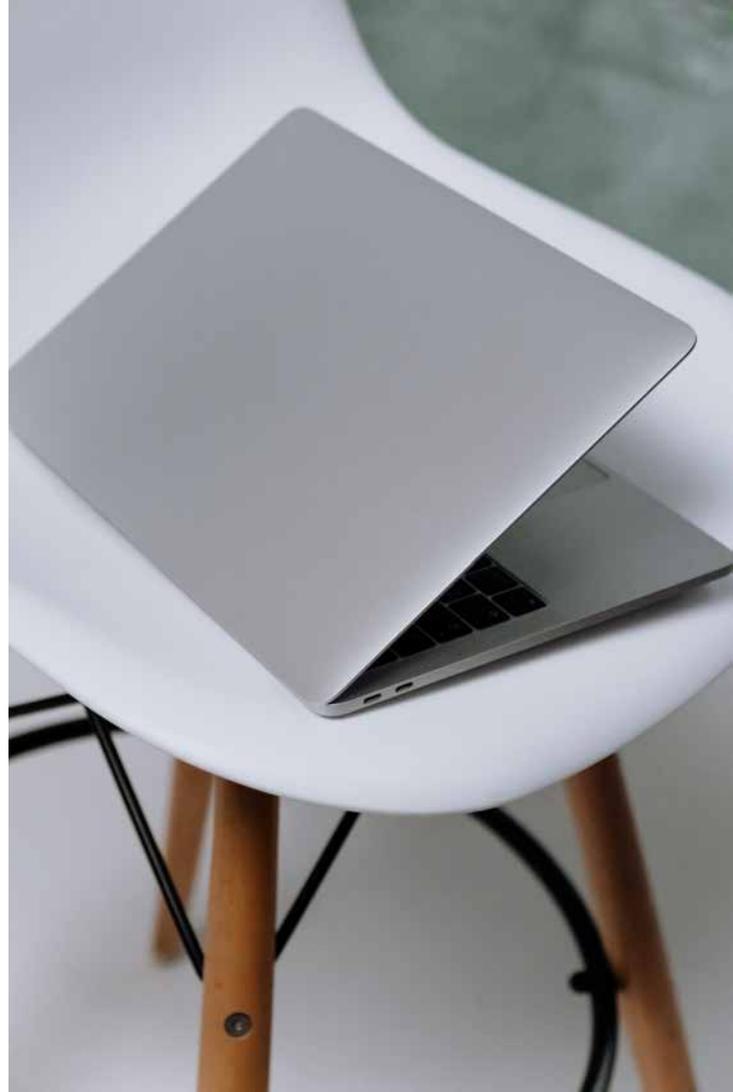
⇒University of Tokyoからの研究員のネットワークを基に、JAGESの研究室の教員とZoomで面談。本人が申請している予算と調整をしながら、調査を行うことに向けて準備。



University of Tokyoからの研究員

介護施設で提供されている食事の比較文化的な調査を行うため、海外での協力先を探していた。

⇒上記の学生の出身はレバノン、現在はイギリス在住であり、病棟勤務の経験があった。連携の相談を行い、前向きな意見交換をした。



今年のIARU ALH Conferenceは コペンハーゲンで開催！

- ・ 現地開催 (19-20, October 2022)
- ・ 渡航費
(飛行機代、参加費、ホテル代) **無料!**

WINGS-GLAFSの学生2名を募集します

- ・ 人数が多い場合は、選考をします
- ・ 使用言語は英語です
- ・ 英語がNativeではなくても、積極的に話しをする姿勢を求めます
- ・ 申し込み・質問
jitu@glafs.u-tokyo.ac.jp



●研究連携機構 高齢社会総合研究機構（IOG: Institute of Gerontology）の各種アクティビティへの参加

- ・JST、文科省、各種産学連携プロジェクトへの参加（各担当者の許可のもと）
- ・産学連携プロジェクト

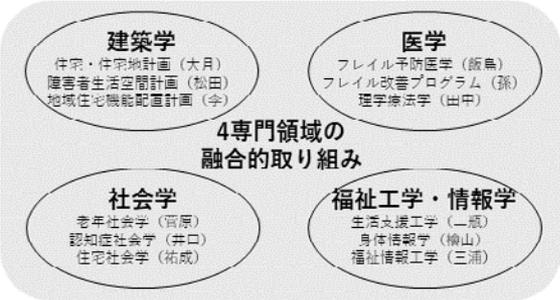
文科省科研A（代表：大月）

（建築学）
大月 敏雄
松田 雄二
李 鎔根
（医学）

飯島 勝矢
孫 輔卿
田中 敏明
（福祉工学・情報学）

二瓶 美里
檜山 敦
三浦 貴大
（社会学）
菅原 育子
井口 高志
祐成 保志

100年人生対応の包摂型地域創出のための
統合型地域診断に基づく
地域再生手法の研究



診断軸1：＜個人の評価＞ 100年人生を見据えた多様な個人特性の適正評価

＜総合化すべき旧指標・新指標＞
年齢：乳幼児、超高齢者（90歳、100歳）
…
疾病：認知症、フレイル…
障害：身体、精神、知的…
世帯属性：ひとり親、単身…
ライフスタイル：コミュニティ親和性…

＜診断の方向性＞
適切かつ小規模の支援さえあれば地域社会の中で自律的・自立的に生きていける個人として個人を捉え直し、個人特性の地位部として評価

＜処方方向性＞
地域の中で自律的・自立的生活が可能となる居住地属性：入院、入所、施設居住、住宅種別、地理的属性（GIS）、密度（立地適正化計画）…

診断軸2：＜居場所の評価＞ 個人特性に適した次元空間を超えた居場所の評価

＜総合化すべき旧指標・新指標＞
地域の居場所（ザ・サードプレイス）
地域の空間機能配置
記憶の中の場所
地域情報のリアルタイム共有
思わぬ居場所（3次元空間、バーチャル空間とともにある生きがい）
…

＜診断の方向性＞
人数規模による多様な居場所、リアルな居場所から実空間に限らない記憶の中の居場所・バーチャルな居場所まで、個人特性に応じた居場所獲得状況の評価

＜処方方向性＞
個人特性に応じた多様な居場所を、地域の中で提供していくための地域機能・地域空間再編のための方策

診断軸3：＜移動可能性の評価＞ 地域資源へのアクセシビリティの評価

＜総合化すべき旧指標・新指標＞
・アクセシビリティ評価
建築内・敷地・地域と言った空間移動のための転倒防止、ユニバーサルデザイン
・空間移動支援状況評価
超スローモビリティ、バーチャルな移動、アクセシリティラシーの獲得状況
・生活拠点移動（引越し）評価
地域での住み替え・近居ニーズ評価、劇的環境移行を伴わない引越し評価
・緊急時の安全確保状況評価
災害時の緊急避難的移動、堅牢建物、避難所、仮設居住環境の確保

＜診断の方向性＞
空間移動のためのアクセシビリティの確保状況評価、空間移動のための支援状況の評価、生活拠点移動（引越し）評価、緊急時の安全確保状況評価といった側面一地域における移動可能性を総合評価

＜処方方向性＞
地域の中で、個人特性に応じたニーズとしての移動要求をスムーズに満たすための地域資源の再構築を通して、情報環境、配達環境、フレイル予防的解決といった諸側面からQOC（Quality of Community）を高める方策